

コレクション展 2015-II

われらの狂気を生き延びる道を教えよ

2015年7月25日(土)～10月18日(日)

核の脅威は消えていない。

狂気を生き延びる道を美術表現のなかに探ります。

本展では、被爆70周年にあたり、当館のコレクション作品の中からヒロシマをテーマとした作品を取り上げ、現代美術においてヒロシマの問題が作家のなかでどのように捉えられ、表現されてきたかを振り返ります。そしてそれらの表現のなかに、今なお核の脅威にさらされている現在の状況を生き抜く道を探ります。

原爆投下から70年という時が経ち、ヒロシマの出来事は私たちの記憶から遠ざかりつつあります。しかしながら、世界は脆い平和の上に成り立っており、ひとたび戦争が起これば、人類を破滅に導く核兵器が使用されないという保証はどこにもありません。さらにフクシマの問題が明らかにするように、私たちは今なお核の脅威にさらされているのです。

展覧会名「われらの狂気を生き延びる道を教えよ」は、本展出品作家アルフレド・ジャールの作品タイトルでもあります。これはヒロシマと向き合ってきた小説家、大江健三郎が自らの短編集の表題としてイギリスの詩人オーデンの詩句から引用した言葉です。1945年8月6日以降、「ヒロシマ」は人類の普遍のテーマとして、さまざまな芸術活動のなかで語られてきました。現代美術もまた時代を映す鏡として、ヒロシマの意味を問い続けています。核問題を抱え続ける狂気の時代をいかに生き延びるか、その方法を探ります。

【展示構成・出品作家】

●ヒロシマを描くーイメージとしてのヒロシマ

土屋幸夫、井上覚造、池田龍雄、立石大河亜、宮崎進、横尾忠則、菊畑茂久馬ほか

●ヒロシマを記録するー証言としてのヒロシマ

土田ヒロミ、細江英公、佐藤時啓 +Wandering Camera、宮本隆司ほか

●ヒロシマを記念するーヒロシマのためのモニュメント

イサム・ノグチ、ヘンリー・ムーア、フィリップ・キング

●ヒロシマをたどるー痕跡としてのヒロシマ

イヴ・クライン、ロジャー・アックリング、高松次郎、岡部昌生、若林奮、片瀬和夫ほか

●ヒロシマを考えるー核時代の想像力

松沢宥、アンジュ・レッチア、アルフレド・ジャー、蔡國強、ヤノベケンジ、小沢剛ほか

開催概要

【会期】	2015年7月25日(土)～10月18日(日)
【開館時間】	10:00-17:00 ※入場は閉館30分前まで
【休館日】	月曜日(9月21日、10月12日を除く)、 9月24日(木)、10月13日(火)
【観覧料】	一般 370(280)円、大学生 270(210)円、 高校生・65歳以上 170(130)円、中学生以下無料 ※()内は30人以上の団体料金

広島市現代美術館(学芸担当:洲濱 広報担当:後藤、鈴木)
〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1
TEL/ 082-264-1121(代表) FAX/ 082-264-1198
E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp



アルフレド・ジャー
《われらの狂気を生き延びる道を教えよ (ヒロシマのために)》1995



井上覚造
《地球は終わりぬ》1956



若林奮
《DOME (ドーム)》1988



小沢剛
《ベジタブル・ウェポン・スペシャルー牡蠣の水炊き鍋、とるとる湯豆腐、美酒(びしょ)鍋 / 広島》2005